

## 2 Zabbix プロキシ

Zabbix プロキシの設定ファイルでサポートされているプロキシを次に示します:

パラメータ	必須	範囲	デフォルト	説明
CacheSize	必須でない	128K-2G	8M	設定キャッシュのサイズ (バイト単位) ホストやアイテムデータを保存する共有メモリのサイズ。 上限は、バージョン2.0.5より前は1Gでした。
ConfigFrequency	必須でない	1-604800	3600	プロキシがZabbix サーバから設定データを取得する頻度 (秒数) パッシブモードのプロキシに対しては、このパラメータは無視されます。
DBHost	必須でない		ローカルホスト	データベースホスト名 MySQLの場合、ローカルホストまたは空の文字列はソケットを使用する結果になります PostgreSQLの場合は空の文字列の場合だけ、ソケットを使用しようとしています。
DBName	必須			データベース名 SQLite3では、データベースファイルへのパスを必ず指定します DBUser と DBPasswordは無視されます。 \\警告\\Zabbixサーバが使用しているのと同じデータベースを使おうとしないでください。
DBPassword	必須でない			データベースのパスワード SQLiteでは無視されます。 パスワードが使用されていない場合は、この行をコメントアウトしてください。
DBSchema	必須でない			スキーマ IBM DB2に使用されます。
DBSocket	必須でない		3306	MySQL ソケットへのパス ローカルソケットを使用しない場合は、データベースポート SQLiteでは無視されます。
DBUser				データベースユーザ SQLiteでは無視されます。
DataSenderFrequency	必須でない	1-3600	1	プロキシが、N秒ごとに、収集データをサーバに送信します。

パラメータ	必須	範囲	デフォルト	説明
DebugLevel	必須でない	0-4	3	デバッグレベルを指定: 0 - デバッグしない 1 - 致命的な情報 2 - エラー情報 3 - 警告 4 - デバッグ用 (多くの情報が生成されます)
ExternalScripts	必須でない		/usr/local/share/zabbix/externalscripts	外部のスクリプトの場所 (コンパイル時のインストールの有効な datadir に依存)
Fping6Location	必須でない		/usr/sbin/fping6	fping6の場所。 fping6 のバイナリがroot権限を持っていることと[SUIDフラグが設定されていることを確認してください。 fpingユーティリティがIPv6アドレスを処理できる場合は、空白("Fping6Location=")を作ってください。
FpingLocation	必須でない		/usr/sbin/fping	fpingの場所 fping のバイナリがroot権限を持っていることと[SUIDフラグが設定されていることを確認してください。
HeartbeatFrequency	必須でない	0-3600	60	ハートビートメッセージの頻度 (秒単位) サーバーサイドでプロキシの可用性を監視するのに使用されます。 0 - ハートビートメッセージが無効になります。 パッシブモードのプロキシに対しては、このパラメータは無視されます。
HistoryCacheSize	必須でない	128K-2G	8M	ヒストリキャッシュのサイズ (バイト単位) ヒストリデータを保存する共有メモリのサイズ 上限は、バージョン2.0.5より前は1Gでした。
HistoryTextCacheSize	必須でない	128K-2G	16M	ヒストリキャッシュのサイズ (バイト単位) 文字、テキスト、ログヒストリデータを保存する共有メモリのサイズ 上限は、バージョン2.0.5より前は1Gでした。

パラメータ	必須	範囲	デフォルト	説明
Hostname	必須でない		Hostnameltem で設定	一意な、大文字/小文字を区別するプロキシ名。プロキシ名がサーバに知られていることを確認してください！ 使用可能な文字: 英数字、'.'、'_'、'-'、'_' 最大長: 64
Hostnameltem	必須でない		system.hostname	Hostname が定義されていない場合に、Hostnameを設定するのに使用されるアイテム（このアイテムは、エージェント上での実行と同じようにプロキシ上で実行されます）。 UserParameters[]パフォーマンスカウンタ、エイリアスはサポートしていませんが[]system.run[]をサポートしています。 Hostname が設定されている場合は無視されます。 このオプションは1.8.6以降でサポートされています。
HousekeepingFrequency	必須でない	1-24	1	Zabbix がhousekeeperのプロシージャをホストで実行する頻度（時間単位） Housekeeperは、ヒストリ、警告、アラームの表から不要な情報を削除します。
Include	必須でない			設定ファイルのディレクトリ内に個別のファイルまたはすべてのファイルを含むことができます。
JavaGateway	必須でない			Zabbix Java ゲートウェイのIPアドレス（またはホスト名）。 Java ポーラが開始された場合にのみ必要となります。 このオプションは2.0.0以降でサポートされています。
JavaGatewayPort	必須でない	1024-32767	10052	Zabbix Java ゲートウェイがリッスンするポート番号 このオプションは2.0.0以降でサポートされています。
ListenIP	必須でない		0.0.0.0	トラップがリッスンするIPアドレスのカンマ区切りのリスト このパラメータが欠落している場合は、トラップはすべてのネットワークインターフェースにリッスンします。 複数のIPアドレスは、1.8.3以降にサポートされています。
ListenPort	必須	1024-32767	10051	トラップのリッスンポート

パラメータ	必須	範囲	デフォルト	説明
LogFileSize	必須でない	0-1024	1	ログファイルの最大値[MB単位] 0 - 自動ログローテーションが無効
LogFile	必須でない			ログファイルの名前 設定されていない場合は、syslogが使用されます。
LogSlowQueries	必須でない	0-3600000	0	指定した時間以上を要したデータベースクエリをログに記録（ミリ秒単位）。 0 - 遅いクエリをログに残しません。 このオプションは、DebugLevel=3 で有効になります。 <b>1.8.2以降でサポートされています。</b>
PidFile	必須でない		/tmp/zabbix_proxy.pid	PIDファイルの名前
ProxyLocalBuffer	必須でない	0-720	0	データがすでにサーバと同期されていても、プロキシはデータをローカルにN時間、保持します。 このパラメータは、ローカルデータがサードパーティのアプリケーションに使用される場合に使用できます。
ProxyMode	必須でない	0-1	0	プロキシの操作モード 0 - アクティブモードでのプロキシ 1 - パッシブモードでのプロキシ このオプションは、 <b>1.8.3以降でサポートされています。</b>
ProxyOfflineBuffer	必須でない	1-720	1	Zabbix サーバと接続がない場合に、プロキシはN時間、データを保存します。 古いデータはなくなります。
ServerPort	必須でない	1024-32767	10051	Zabbix サーバ上の Zabbix トラップのポート番号 パッシブモードのプロキシに対しては、このパラメータは無視されます。

パラメータ	必須	範囲	デフォルト	説明
Server	必須			Zabbix サーバのIPアドレス (またはホスト名) アクティブプロキシは、サーバから設定ファイルを取得します。 パッシブモードのプロキシに対しては、このパラメータは無視されます。
SNMPTrapperFile	必須でない		/tmp/zabbix_traps.tmp	SNMPトラップデーモンからプロキシにデータを受け渡すのに使用される一時的なファイル zabbix_trap_receiver.pl または SNMPPTT設定ファイル内の設定と同じである必要があります。 このオプションは2.0.0以降でサポートされています。
SourceIP	必須でない			外向きの接続のソースのIPアドレス
SSHKeyLocation	必須でない			SSHチェックとアクションのための公開鍵と秘密鍵の場所
StartDBSyncers	必須でない	1-100	4	プリフォークされたDB Syncerのインスタンスの数の上限は、1.8.5より前は64でした。 このオプションは1.8.3以降でサポートされています。
StartDiscoverers	必須でない	0-250	1	プリフォークされたディスカバラのインスタンスの数の上限は、1.8.5より前は255でした。
StartIPMIPollers	必須ではない	0-1000	1	プリフォークされたHTTPポーラのインスタンスの数の上限は、1.8.5より前は255でした。
StartJavaPollers	必須でない	0-1000	0	プリフォークされたJavaポーラのインスタンス このオプションは2.0.0以降でサポートされています。
StartPingers	必須でない	0-1000	1	プリフォークされたICMPピンガーのインスタンスの数の上限は、1.8.5より前は255でした。

パラメータ	必須	範囲	デフォルト	説明
StartPollersUnreachable	必須ではない	0-1000	1	プリフォークされた接続できないホスト[IPMIを含む)へのポーラのインスタンスの数 上限は、1.8.5より前は255でした。 <b>このオプションは1.8.3以降でサポートされています。</b>
StartPollers	必須でない	0-1000	5	プリフォークされたポーラのインスタンス 上限は、1.8.5より前は255でした。
StartSNMPTrapper	必須でない	0-1	0	「1」に設定した場合は、SNMPトラップのプロセスが開始されます。 <b>このオプションは2.0.0以降でサポートされています。</b>
StartTrappers	必須でない	0-1000	5	プリフォークされたトラップのインスタンスの数 トラップは、Zabbixセンサー、アクティブエージェントからの接続を受け入れます。 上限は、1.8.5より前は255でした。
Timeout	必須でない	1-30	3	エージェント[SNMPデバイス、外部チェックをどれくらいの期間待機するかを指定します(秒単位)
TmpDir	必須でない		/tmp	一時的なディレクトリ
TrapperTimeout	必須でない	1-300	300	トラップが新しいデータを処理するのにかかるかもしれない秒数の指定
UnavailableDelay	必須でない	1-3600	60	ホストが <b>有効でない</b> 期間に、可用性をチェックされる頻度(秒単位)
UnreachableDelay	必須でない	1-3600	15	ホストに <b>接続できない</b> 期間に、ホストが可用性をチェックされる頻度(秒単位)
UnreachablePeriod	必須でない	1-3600	45	<b>接続不可</b> になった何秒後にホストを無効として扱うか

本ページは2013/06/02時点の原文を基にしておりますので、内容は必ずしも最新のものと限りません。最新の情報は右上の「Translations of this page」から英語版を参照してください。

From:

<https://www.zabbix.com/documentation/2.0/> - **Zabbix Documentation 2.0**

Permanent link:

[https://www.zabbix.com/documentation/2.0/jp/manual/appendix/config/zabbix\\_proxy](https://www.zabbix.com/documentation/2.0/jp/manual/appendix/config/zabbix_proxy)

Last update: **2015/10/02 04:13**

